

# あなたの信仰があなたを救つた

ルカによる福音書 一七章一一節——一九節

一一〇一 一年七月十七日礼拝説教

秋吉隆雄

牧師

今日与えられた御言葉は、ルカによる福音書一七章一一節から一九節までです。皆さんのがお持ちの聖書は「らい病」となつているでしょうか、それとも「重い皮膚病」となつていてでしょうか。「らい病」となつてているのは古い版です。「らい病」は差別・不快用語なので、新しい版は「重い皮膚病」と書き直しています。そして、この個所の病人は、正しくは「らい病」ではなく、歴史的事実で言うなら「重い皮膚病」にかかつてている人だと理解されています。しかし、ギリシア語の聖書では「レプロイ」という言葉で、これは「らい病」を指します。今、「らい病」と「重い皮膚病」のどちらの訳が良いか議論されています。正しくは「重い皮膚病」です。しかし、当時はそれをも「らい病」と見なし、厳しい差別と排除の中に置いていました。ですから、「らい病」と訳す方が聖書のメッセージが正しく伝わるという人もいます。私は、今日の知識でなく、当時の人々の思いから判断すると、「らい病」と訳す方が適切ではないかと思っています。

もう一つ、「らい病」は差別・不快用語であるから「ハンセン病」と言っています。「らい病」という言葉は本当に差別・不快用語なのかという問題があります。「らい病」は感染する、体も変形する恐ろしい病気として、古から厳しい隔離政策が取られてきました。

病人は肉親からも見捨てられ、地獄のような生活を強いられてきました。一八七三年に、ノルウェーのハンセンという医者が「らしい菌」を発見し、病気の原因を突き止めました。そして、一九四三年に「プロミン」という特効薬が作られ、その薬は改良され、今日、「らしい病」は完治する病気となりました。しかし、「ご承知のように、日本は完治することは分かつていてもかかわらず、その後も同じ過酷な隔離政策を取つてきました。ここに「ハンセン病者」の著しい人権侵害、生活権の侵害がありました。彼らに対して、その苦しみを更に増幅させてきました。

私がブラジルに行つた時、堀江神父に連れられて「ハンセン病者」であつた人の多い村に行きました。車椅子に乗つた人が大勢いました。そして、社会に出られない障がいの残つた人の施設があり、そこを訪ねました。堀江神父は一人ひとりをハグ（抱きしめること）して、喜びの挨拶を交わしていました。私たちも堀江神父に倣い、彼らとハグし合いました。帰る時、彼らは「私たちを抱きしめてくれた」と喜びの挨拶をしてくれました。

「らしい病」に対する日本人の偏見と差別に、根深いものがあります。この「らしい病」は差別・不快用語なのか。私は必ずしもそうではないのではないかと思うところがあります。しかし、過去には彼らへの対応があまりに陰惨であつたので、「らしい病」という言葉は不快感を持たれた。人々が不快に思う言葉を使うことは止めた方が良い。ですから、私は「ハンセン病」という言葉で表すべきであると思つています。しかし、今日の聖書では、当時の人々

の恐怖と差別を伝えるメッセージとして、あえて「らい病」と言わせていただきます。

ルカによる福音書一七章一一節から一九節までをご覧ください。

「イエスはエルサレムへ上る途中、サマリアとガリラヤの間を通り、遠くの方に立ち止まつたまま、声を張り上げて、『イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください』と言つた。イエスはらい病を患つている人たちを見て、『祭司たちのところに行つて、体を見せなさい』と言われた。彼らは、そこへ行く途中で清くされた。その中の一人は、自分がいやされたのを知つて、大声で神を賛美しながら戻つて來た。そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。この人はサマリア人だつた。そこで、イエスは言われた。『清くされたのは十人ではなかつたか。ほかの九人はどこにいるのか。この外国人のほかに、神を賛美するために戻つて來た者はいないのか。』それから、イエスはその人に言われた。『立ち上がりつて、行きなさい。あなたの信仰があなたを救つた。』

イエス・キリストは十字架の死を目指して、弟子たちと共にエルサレムに上つていきました。その場所はサマリアとガリラヤの間です。この場所に意味があります。ガリラヤはイエス・キリストが神の国の宣教を力強く始めた所です。『ガリラヤの春』と言われる素晴らしい宣教が終わつて、ガリラヤの南、サマリアを通り、イエス・キリストはエルサレムへと苦難の道を歩き始めたところです。

サマリアは、かつてはイスラエルと言われた国です。ソロモン王の死後、南ユダと北イスラエルに分裂しました。北イスラエルの首都がサマリアです。ですから、この地方をサマリアと言うようになりました。北イスラエルは紀元前七二四年にアッシャリアによって滅ぼされました。占領軍のアッシャリア人は大きく見え、その力に圧倒されました。戦後、日本でも、アメリカ人が大きく、優れた人種のように見えた。それと同じで、北イスラエルの人々は憧れてアッシャリア人と結婚しました。当時、結婚するということは、相手方の宗教を受け入れることでした。北イスラエルにはアッシャリアの神々が侵入し、これにひれ伏したのです。

唯一・全能の神、ヤーウエへの信仰を捨て、他の神々に従つた北イスラエル人を、南ユダの人々は節操のない民として、徹底的に軽蔑しました。ですから、イエス・キリストの時代、サマリア人も同じユダヤ人でしたが、異教徒と見なし、汚れたサマリアの地には足を踏み入れない、そして、口も利かない。そういう差別の中にサマリア人は置かれていたのです。

そのサマリアとガリラヤの境のあたりです。十名で構成された「らしい病者」の群れがありました。当時、「らしい病」の判定は祭司がしていました。祭司はもちろん医者ではありません。「らしい病」の判定はかなり難しく、「らしい病」ではない人が「らしい病」と認定された悲劇がごく最近まであったくらいです。ですから、祭司は少しの皮膚病でも安易に「らしい病」と判定したのです。「重い皮膚病」そして「らしい病」を岩波訳の聖書ではヘブライ語の原語「ツ

アーラアト」という言葉をそのまま使っています。彼らは汚れた者としてイスラエルの共同体から排除され、宿営の外で生きていかなければなりませんでした。「ツアーラアト」の人々は町の外にコロニーを作り、投げ込まれた残飯のようなもので飢えをしのいでいました。しかし、まだ元気な人は人恋しくて町の中に出でくる。彼らは衣服を裂き、髪をほどき、口髭を被い、人が近づくと「私は汚れた者です」と叫びながら、自らが身を引く。彼らが人と接近してよい距離は四五メートルまでだったそうです。彼らの孤独、苦悩はいかばかりであつたかと思います。

マルコによる福音書とルカによる福音書は並行記事で、一人の「らい病者」がイエス・キリストを見て、近づき、ひざまずいて「御心ならば、わたしを清くすることができます」と癒しを懇願した事件を記しています。この行為は律法違反です。近づいてはならないのです。彼は律法を破つて、イエス・キリストに近づいた。彼の苦悩の深さが分かります。

今日の聖書は十人の「らい病者」の群れです。群れですから、自制が効いて、律法を守つた。イエス・キリストに近づかない。遠くから声を張り上げて「イエス様、どうかわたしたちを憐れんでください」と叫んだ。四五メートル離れていても、声が届いたのです。

彼らは「らい病者」が守らなければならぬ律法を、集団であつたから遵守した。ところが、彼らは、当時の一つのしきたりを破っています。それは、十人の「らい病者」の中に一人のサマリ

ア人がいたことです。先ほども申しましたように、ユダヤ人はサマリア人を軽蔑し、差別し、サマリアの地には足を踏み入れない、口も利かないというしきたりでした。ところが、十人の群れの中に一人のサマリア人がいて、彼らは共同の歩みをしていた。差別を受けると、その同じ差別を他の人にして、悲劇を増幅していく悲しい構造があります。しかし、その逆もある。同じ差別を受けた者として、互いに受け入れ合う。彼らの群れは、しきたりを破り、サマリア人を同じ仲間としていたのです。

先週の週報の「牧師室より」に荒井献先生の言葉を書きました。三・一一の東日本大震災を受け、荒井先生は、これからは、「強い日本をもう一度ではなく、弱さを絆に連帯し助け合う」と言つておられます。十人の「らい病者」たちは、まさに弱さを絆に連帯し、群れを形成していたのです。

その十人が声を揃え、「イエス様、先生、どうかわたしたちを憐れんでください」と叫んだ。イエス・キリストは遠くにいる彼らを見た。そして「祭司のところに行つて、体を見せなさい」と応えた。イスラエルでは「ツアーラアト」が癒された時は、祭司の所に行つて体を見せ、治つたことが証明されると、規定の献げ物をして、イスラエルの共同体に復帰することができると定められています。

「らい病」は二十世紀の後半になつてようやく完治する病となりました。聖書時代、「らい病」であるならば、治ることはあり得ない。ということは、「重い皮膚病」を含んでいた。皮膚病である

ならば治る。治つたら、祭司に見せて、社会復帰できる。これは「らい病」ではないということです。イエス・キリストは「あなたがたのらい病は直つた。祭司に見せ、治つたことを証明してもらい、共同体に戻りなさい」と憐れんでくださつたのです。彼らは、このイエス・キリストの言葉を信じて、祭司の所に向かつた。イエス・キリストの言葉に従順に従つたのです。なぜ、このように従つたのか。それは、イエス・キリストは病を癒し、悪霊を追放する方であると聞いていたからでしょう。そして、彼らは藁にもすがる思いで、祭司の所に急いだのです。

するとその途中、彼ら十人の「らい病」は癒され、清められた。イエス・キリストは、清さと汚れ、淨・不淨の垣根を乗り越え、全てを清い者として、共にあることを示されました。これが、イエス・キリストの福音です。人間の作つた律法は差別と抑圧を生み出す。それからの解放がイエス・キリストの福音、喜びのおとずれだったので。この喜びに十人の人々は与りました。

この時、十人の中の一人、サマリア人は自分の体が癒されたことを知つて、大声で神を賛美しながら、イエス・キリストの所に戻つてきました。そして、イエス・キリストの足元にひれ伏し、感謝した。サマリア人として差別され、「らい病者」として排除されてきた。そこから解放された彼の喜びは本当に大きかつた。まず、イエス・キリストの所に駆け寄り、感謝したい。その思いで一杯でした。ひれ伏すサマリア人を見て、イエス・キリストは言われます。「清くされたのは十人ではなかつたか。ほかの九人はどこに

いるのか。この外国人のほかに、神を賛美するために戻つて来た者はいないのか。」

「わたしたちを清めてください」という懇願に応え、イエス・キリストは十人の者を清めた。ところが、九人のユダヤ人は戻つてこなかつた。戻つて来て、神を賛美したのはサマリア人だけでした。イエス・キリストは彼を「外国人」と言つています。九人のユダヤ人は祭司に体を見せ、治つたことを証明してもらい、規定の献げ物をして、共同体に復帰したでしよう。その喜びは、過去の差別、排除からすると、天にも上つたようなものだつたでしょ。しかし、彼らはイエス・キリストの憐れみを忘れ去つた、あるいは、無視した。考えさせられることです。私たちも立ち上がるため、大きな恩を受けています。ところが、その恩を忘れ、自分自身で立ち上がつたかのように思つています。私は恩を無視することが本当に多く、恥じ入ります。

九人のユダヤ人は喜びの中で感謝すべき方に対し感謝を怠つたのです。ユダヤ人から軽蔑されて、差別されていたサマリア人だけが感謝すべき方の所に戻つてきました。これには理由があります。ユダヤ人には神殿があり、祭司もいました。判定を受ける場所と人がいました。サマリア人は既に国家を喪失し、ヤーウェ宗教はかたちを失つていました。証明してくれる祭司はいない。彼は清めてくださつたイエス・キリスト、この方のみに感謝する。ですから、神を賛美するために戻つてきたのです。

今日の聖書は、サマリア人がイエス・キリストに対し、神礼拝

をしている姿を伝えています。彼はイエス・キリストを神として、この方を礼拝するために戻ってきたのです。それが、今日の聖書のポイントです。

イエス・キリストはサマリア人に言います。「立ち上がりつて行きなさい。」倒れていた彼が、神の憐れみによつて立ち上がる事が許された。人間としての尊厳を回復して、生きることができる。イエス・キリストはその回復を与えられたのです。そして、次にこう言われます。「あなたの信仰があなたを救つた。」この言葉は、十二年間も出血が止まらない婦人病にかかつていた女性に言われた言葉と同じです。彼女は婦人病ですから、恥ずかしくて言葉では言えない。人ごみをかき分けて、イエス・キリストの後から近づき、衣に触つた。すると、女性の病は癒された。イエス・キリストは、誰が衣に触つたのかと問われる。畏れた彼女は、自分の身に起こつたことを告白します。すると、イエス・キリストは「娘よ、あなたの信仰があなたを救つた。安心して行きなさい」と言われました。この言葉に、どれほど慰められ、励まされたでしょうか。彼女も共同体の中に復帰する喜びを与えられています。

「あなたの信仰があなたを救つた。」しかし、この言葉は少しおかしい。私たちの救いは、自分の信仰のあり方が良かつたから与えられたのではない。そうではなくて、イエス・キリストの憐れみ、神の愛をいただいて救われたのです。救いは神からの無条件の恵み、恩寵です。私たちの信仰は、救いに与るための条件や功績ではない。神の恵みを喜びと感謝をもつて受け入れること、こ

これが私たちの信仰です。そうであるにもかかわらず、イエス・キリストは「あなたの信仰があなたを救つた」と言われます。この言葉は、サマリア人にに対する大いなる励ましでしょう。この言葉を聞いて、彼はどれだけ励まされたでしょうか。イエス・キリストは、このように、その人をその人として立ててくださるのです。

もう一点、これが大切です。九人のユダヤ人は「らい病」から立ち直り、共同体に復帰していった。彼らもイエス・キリストに癒していただいたのです。しかし、サマリア人は帰つてきて、イエス・キリストを神として礼拝した。彼は癒されただけでなく、救われています。聖書が告げる人間の救いとは、イエス・キリストを通して神を見て、信じる。その神を神として礼拝する。ここに全き救いがある。

サマリア人は、この救いに与っています。先ほども申しましたが、今日の聖書のポイントは、このことです。私たちはイエス・キリストを通して神を知り、この方を礼拝する。その時、私たちに与えられている現実がどのように破れていくよりも、神にあつて救われているのです。なぜなら、神が私を憐れみ、神の愛の中にはある。このことが私たちの救いです。サマリア人は戻つてきて、イエス・キリストを礼拝することを通してこの救いに与つたのです。

私たちは毎週、主の日に礼拝を捧げています。礼拝は神を信じ、崇めることです。「あなたは私を無条件で、そして無限に愛してくれださつている神です」と告白する。この告白に生きる者は既に救

われている。

今日のサマリア人は、このことを私たちに伝えています。神礼拝に生きる。これが、私たちの救いです。そして今、聖靈が自身が、この確かな救いへと私たちを包み込んでくださっています。

お祈りいたします。

神様、私たち人間は何と罪深い存在でありましょうか。苦しみ悩む者の痛みを知らず、なお片隅に追いやり、自らを誇るような罪に陥っています。神様、この罪をお赦しください。イエス・キリストは「清い、汚れている」という隔ての中垣を取り除き、「共に生きよ」という福音をお示しくださいました。この福音は本当に大きな喜びです。神様は人を互いに愛するように造られました。イエス・キリストはまさに、そのことを言葉と行いによって表されました。あなたの創造に沿って、イエス・キリストに倣って生きる者となさせてください。

そして今日、与えられた御言葉は、イエスをキリスト・救い主として信じる者、イエス・キリストを遣わされた神を礼拝する者に確かな救いを与えてくださいと伝えています。

イエスをキリストと信じる信仰は、私たちの知恵や力からでたものではありません。ただ、聖靈の導きによって与えられるものです。この礼拝堂に聖靈が満ちています。それゆえに私たちはイエスをキリストと信じ、神様を崇め、拝します。今、確かな救いが与えられていますことを喜び、あなたを心から賛美いたします。群れに招かれていることを感謝いたします。互いに受け入れ、

愛し合う群れとして、あなたの御国の姿を現すように、聖靈の更なる導きを祈ります。

日本は今、東日本大震災、続く福島原発事故によつて、未曾有の苦しみと悲しみの中で途方に暮れています。共に立ち上がりれるようく知恵と勇気を与えてください。私たちの教会が被災者の方々の苦悩と繋がることができるように、お導きください。

今日から始まる一週間、御言葉に支えられ、聖靈に与つて生きる者とさせてください。心からの感謝と祈り、主イエスの御名によつてお捧げいたします。アーメン

## 引用文献

聖書 新共同訳、日本聖書協会、一九八七年九月

讃美歌 21、日本基督教団出版局、一九九七年四月